

公益財団法人高知県遺族会青年部総会の開催

「青年部(次世代の会)」として正式発足

青年部の組織化については、昨年9月9日の青年部結成式(高知県遺族会創立70周年記念遺族大会と同時開催)の後、正式発足に向け日程調整を行ってきました。その結果、去る2月10日に高知県護国神社、社済美館で、青年部員24人と高知県遺族会理事12人が出席し、第1回青年部(仮称)総会を開催することができました。

会議では、まず青年部規程(案)が事務局から提案され、その承認が行われました。そして、規程名称を、仮称「青年部」から「青年部(次世代の会)」として正式発足することとなりました。「青年部」の名称はこれまでの遺族会の組織を前提とする印象が強い、次世代の会を挿入することで、組織や今後取り組む

事業に広がりや印象付けることができるのではないかと、いった意見が出されました。続いて、初代役員を選任に移りました。役員候補として、香南・香美支部の中岡美佳、南国市支部の北村直子、土佐長岡支部の吉永裕三、吾川支部の黒川真介の4氏を副部長として承認。その後、4人の協議により、初代「青年部(次世代の会)」部長として黒川真介氏を選任。総会に報告し選任されました。

黒川部長が就任のあいさつ後、来年度事業計画及び予算(案)の審議を行いました。青年部組織の拡充に向けた事業の取り組みと予算計上が必要とし、具体的には、各種行事での募集チラシの配布、SNS等での情報発信など、事業の周知が必要なこと、また、新たな部員の勧誘を行う必要から、所定の広告料等の予算計上を行うことなど、事業計画・予算の修正意見が出されました。また、青年部研修医業として先行する他県の青年部との情報交換、各地の祈念館の視察など多くの提案があり、原案修正の後、承認されました。今後、3月に予定される理事会・評議員会で決定後、施行されることとなります。

青年部総会役員(右から吉川、黒川、大石会長、中岡、北村の名氏)



部長就任あいさつ

高知県遺族会青年部(次世代の会) 部長 黒川 真介

今年で終戦から七十四年。そして、高知県遺族会は昨年、創立七十周年を迎えました。この七十年を超える歳月の流れは、遺族会活動の中心となってきた遺児世代の高齢化とともに、先の大戦の記憶を風化させようとしています。改めて今こそ、戦いの記憶が薄れるなかで、遺族会活動を引き継ぐ中で、あの戦いの起こりから悲惨な戦いと終結、そしてその後の生活までを改めて学び、語り継いでいくことが大事なことではないでしょうか。そして、多くの方々の努力により、つくり上げられた平和な生活を、どのように守り続けていくか、私たちがひとり一人が考えていくべきことだと思います。

今、遺族会の組織運営が大きな転換期を迎えています。これから、我々次の世代の担い手が、遺児の世代から活動を引き継ぎ、果たしていく役割は、大きなものがあると思います。先人が取り組んできた遺族会の活動を引き継ぎ、新たな時代へ遺族会を推し進めていきたいと思っています。進めたいと思っています。一方、私自身は、まだまだ仕事に家庭にと、手が取られていないのも正直なところで、私自身、まだ遺族会活動に自信がない状態です。どうか本会の役員の皆様、各地域のご遺族の皆様には、今後とも孫、ひ孫世代の我々を見守りながらご指導をいただきますようお願い申し上げます。さつとさせていただきます。よろしくお願いたします。